

行あん宮ぐう

元げん

稹しん

寥りょう落らくたり

古いにしえの

行あん宮ぐう

宮みやう花か

寂せき寞ばくとして

紅くれなゐなり

白はく頭とうの

宮みやう女じよ

在あり

間かん坐ざして

玄げん宗そうを

説とく

【作者】元稹(七七九〜八三二年)中国、中唐の詩人。字は微之。河南(河南省洛陽)の人。十五歳で明経科に拔擢(ぼつてき)された秀才で、八〇六年、皇帝による特別試験に首席及第。初め宦官(かんがん)に反抗したが、のちには追従し、後世非難を受けた。官界での地位は宰相に至ったが、政争に絡んで罷免され、地方官を歴任したのち、武昌(湖北省武漢市)節度使として卒した。白居易と親交を結び、元白と併称され、二人の間で贈答唱和した多くの詩が残る。

【通釈】荒れ果てた寂しいさびれた離宮に、赤い花がさびしそくに咲いている。白髪頭の宮女が静かに座って、玄宗皇帝の昔話を語っている。